



都心から一番近い森の町 まちなか森づくり

生物多様性 流山市の活動について

千葉県地球温暖化防止活動推進員 OBN会員横田輝雄



生物多様性とは？

言葉が抽象的なため、何からとりくんだら良いかわからない。
というのが一般的ではないか？
人間も生き物の1つ、私達の生活は、
生き物たちの豊かな個性とつながり
合いながら生きている

里山の自然を永続的に保全し、
自然との共生、健全な生態系と
して効果的に保護しなければならない。

現在、市の人口増加とともに、
住む人の都合の良いように変化
させられてきた。

そして今、生物多様性が失われ
つつあります。



流山市の生物多様性に関する取組が、愛知目標の連携事業に認定されました。

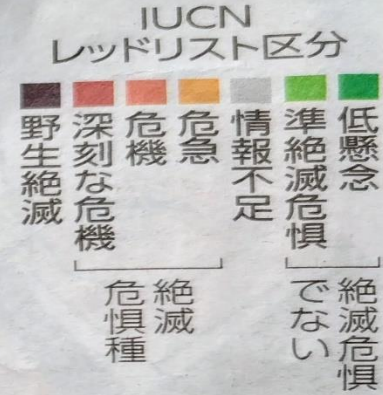
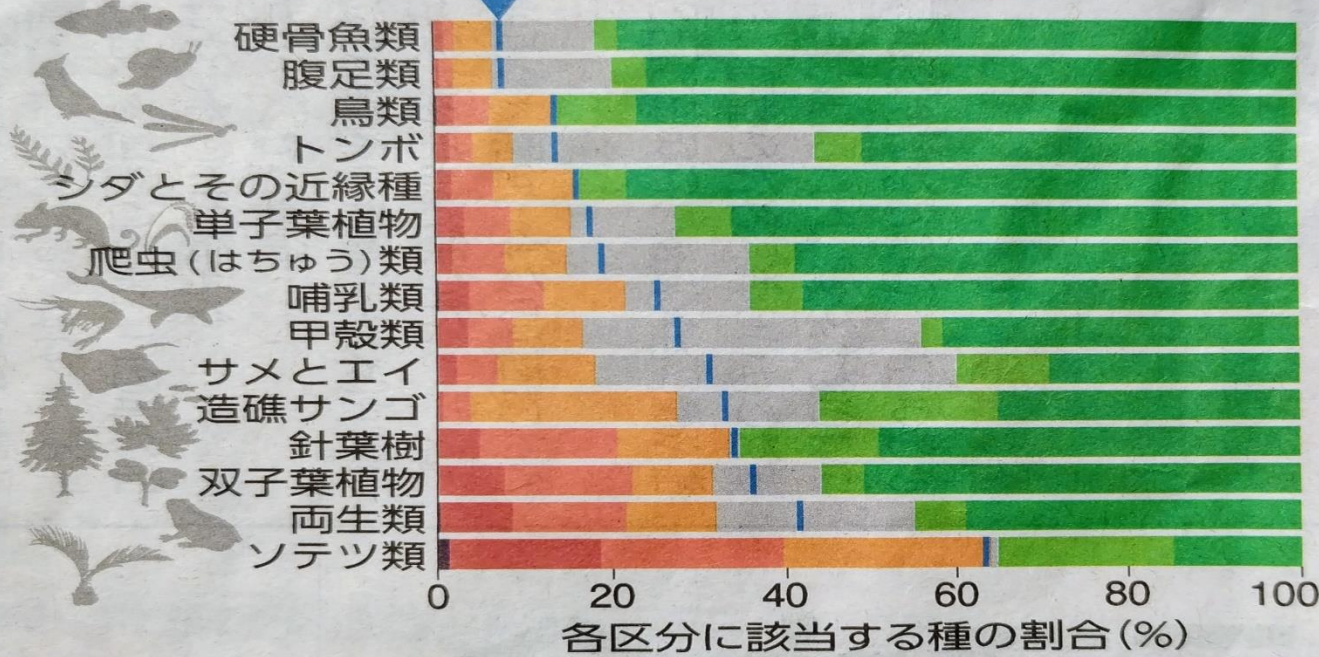


2010(平成 22)年に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議で、2011(平成 23)年以降の世界目標として愛知目標が採択されました。愛知目標では、生物多様性の損失をとめるために効果的かつ緊急な行動を実施するために生物多様性について多くの人々が知ることや、自然環境の損失を防ぎ、20 の個別目標を定めて、2020(平成 32)年までの短期目標としています。

2015(平成 27)年に、流山市の生物多様性に関する活動が認められ、国連生物多様性の 10 年日本委員会により生物多様性ながれやま戦略及び関連事業が愛知目標の達成に向けた連携事業として認定されました。

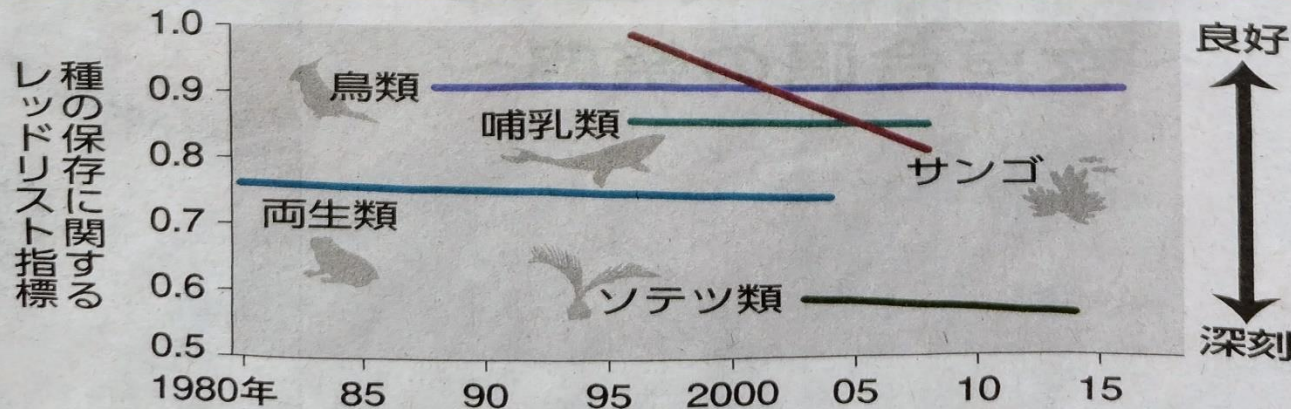
地球上で生物種が減っている

絶滅危惧種の割合の推定値



国際自然保護連合 (IUCN) 作成の絶滅のおそれのある種のレッドリストに記載されている絶滅危惧種が各分類群の中で占める割合

1980年以降の生存種の減少



IUCNレッドリスト評価が2回以上行われた分類群のレッドリスト指標。全種が低懸念区分の場合が1、全種が絶滅区分の場合0。

いずれも「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」から

守りたい豊かな生態系

地球上の生き物の絶滅が加速する中、里山など身近な環境にすむ生き物を守り、増やすことの大切さが注目されている。

オオタカの森を守る、持続可能な循環型のまちづくり

- 平成17年8月つくばエクスプレス流山おおたかの森駅開設
- 市野谷の森が、おおたかの森の駅名になりました。
- 「オオタカ」が市野谷の森での繁殖が明らかになったのは、平成4年。オオタカは野鳥のなかで最も密猟を受ける可能性の高い種、生息を発表するからには密猟の対策をとる必要があります。

町が発展するという事は、ただ単に人口が増え住宅やビルが地面に張り付き、緑が無くなるということでしょうか？

ニューヨークのセントラルパークのような流山市にも自然公園があってもよいのでは？ 私達の流山は、東京から30キロのところに位置しながら豊かな自然を残してきた町。

21世紀の流山は、より良い快適空間に見出せなければならぬと思う。私達の先祖が守り育ててきた「市野谷の森」を是非残していただきたい。





SDGs 目標 13 「気候変動に具体的な対策を」とは

SDGs 目標 13 「気候変動に具体的な対策を」とは、
気候変動とその影響に立ち向かう緊急の対策をとるために示された目標

世界の現状

気温の上昇

2011~2020年の平均気温は、
1850~1900年のそれよりも

1.09 度高い 

海水温の上昇

海面の水温は 100 年あたり


0.53  度の割合で上昇 

→これらの影響で、異常気象や災害が多発

→今後、食料難や水に関する問題の深刻化、自然生物種の絶滅といった事態を引き起こすリスクがある

目標達成のために私たちにできること

 家の中でできること ・ 使用していない電化製品のプラグを抜く ・ 誰もいない部屋の電気は消灯する

 街でできること ・ 近場の外出は徒歩や自転車を使用する ・ プラスチック袋をなるべく使用しない

 企業でできること ・ オフィスの冷暖房設定温度を見直す ・ 社用車を電気自動車に入れ替える

SDGs 目標 14 「海の豊かさを守ろう」とは

SDGs 目標 14 「海の豊かさを守ろう」とは、
海や海洋資源を持続的に利用するために掲げられた目標

✎ 海洋環境の現状

- 海洋ごみが増えている プラスチックごみだけでも合計 1 億 5000 万 t 以上
- 海洋汚染が拡大している 生活排水、工場排水、船やタンカーから漏れた油などが要因
- 海洋資源が減少している 1970 年から 2012 年にかけて海洋生物の個体数が約 50% 減

✎ 目標達成のために私たちにできること

- 01 普段の生活で出ているごみの量を減らす
- 02 街中にごみが落ちていたら回収してごみ箱に捨てる
- 03 回収した海洋ごみを再利用する（例：海ごみアート）

SDGs 目標 15 「陸の豊かさも守ろう」とは

SDGs15 「陸の豊かさも守ろう」とは、
海洋を除く自然環境問題を解決するために掲げられた目標

陸上環境の現状

陸域生態系の破壊



陸域生態系の約**75%**
にも及ぶ領域が人の手で改変

森林伐採の進行



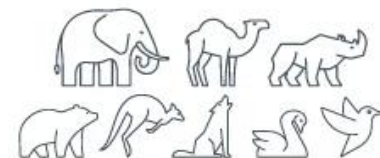
年間平均 **470万ha**
ペースで世界の森林面積が減少

砂漠化の進行



年間 **1200万ha**
のペースで進行

生物の大量絶滅



100万種
に絶滅の危険性

目標達成のために私たちにできること

01 野菜や大豆などの植物ベースの食事を増やす

02 庭やベランダで植栽する

03 NPO や市民団体を支援する

生物多様性の重要性

生物多様性とは

バラエティーに富んださまざまな生き物が豊かに存在していること

📌 生物多様性は、私たちが自然から受け取る恵み(生態系サービス)を支える役割を果たしている 📌

供給サービス



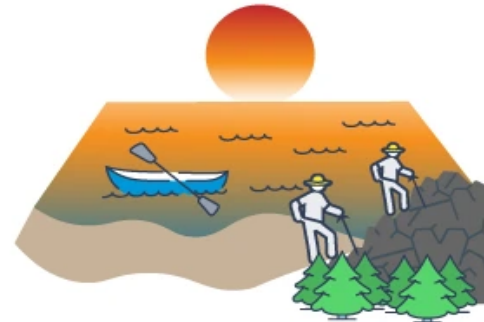
食料や水など
多様なものを供給

調整サービス



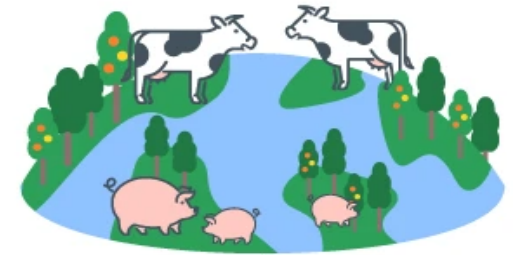
住む環境の
調整と安定

文化的サービス



精神的な恩恵や
文化の醸成

基盤サービス



地球の
環境基盤の構築

✏️ 現在、生物多様性は急激な速度で失われている

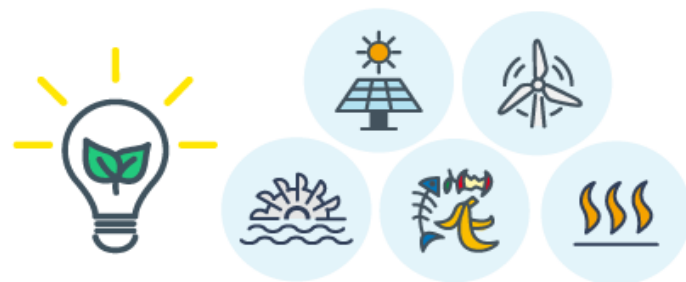
生態系サービスの恩恵をこれからも受けるためには、過剰な消費を控えたり、生物多様性に配慮した食事をしたりするなど、私たちひとりひとりの行動が重要となる

地球沸騰化とは

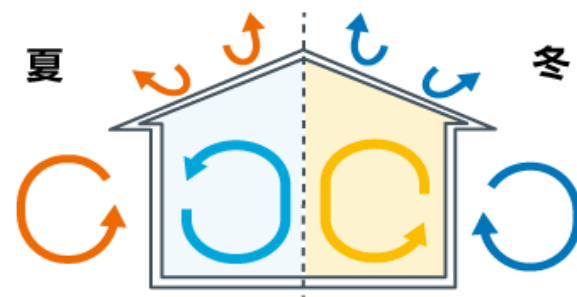
地球沸騰化とは、地球温暖化の進行による影響が危機的な状況であることを表現している言葉

地球沸騰化を防止する対策

再生可能エネルギーの主力電源化



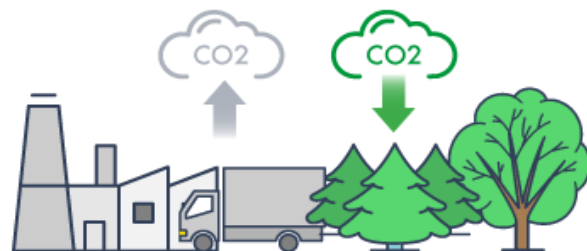
建物の高断熱化を含めた省エネ



自動車のゼロエミッション化



CO2 排出削減策の強化



大量消費社会から循環型社会への転換



地球沸騰化が続いた場合、自然災害が多発するなどの悪影響がさらに深刻化する恐れがある

SDGsウォッシュとは

SDGs に貢献していると表明しているものの
実際には SDGs の達成に貢献していない状態のこと



消費者による企業への要望の増大やテクノロジーの発展、各国政府の罰則強化により
SDGs ウォッシュはより身近な問題となっている

環境基本計画と各個別計画の比較及び新計画への改善点

資料3

環境基本計画 基本目標1

【基本目標】

自然と共生しオオタカがすむ、緑と水に育まれるまち

【方針】

生態系に係る重要な場所・環境を保全・再生するとともに、まちなかの水辺や緑を豊かにして、生物多様性の確保、自然との共生を目指します

【施策の方向】

①「生物多様性ながれやま戦略」の推進②市街地の緑の保全・創造③農地や斜面林の保全・活用、農地生態系保全④水辺の保全・活用、水辺生態系保全

生物多様性ながれやま戦略

現在改訂中

環境審議会で審議中の
議案の為

改訂内容が固まり次第検討するが、人口増によりまちの姿が変わりつつあるため、どこまで自然を保全すべきか又は保全の方法について再検討して提案したい。

環境基本計画 基本目標2

【基本目標】

エネルギー効率が高く、太陽の力を活用する低炭素なまち

【方針】

様々な場面での省エネルギー対策によりエネルギー効率を高めるとともに、太陽光発電を軸とした再生可能エネルギーの導入を進め、二酸化炭素排出量の少ない低炭素型の都市の形成を目指します。

【施策の方向】

- ①「流山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」の推進
- ②都市と交通の低炭素化
- ③市役所の環境マネジメントシステムの運用、改善

- ・市民や事業者を巻き込み脱炭素社会を目指す
- ・公共施設において再エネ導入及びその活用の促進を目指す

流山市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

【長期目標】

2050年度の二酸化炭素排出量 実質ゼロ

【基本方針】

市民や事業者の意識・行動改革による実践行動「ソフトパワー」を最大限に活かし、「脱炭素都市ながれやま」の実現を目指します。

【重点施策】

- ① 市民・事業者との協働による省エネルギー生活への転換の推進
- ② 再生可能エネルギーの活用
- ③ 環境負荷の大きい自動車からの転換
- ④ 廃棄物の発生抑制と資源循環
- ⑤ 緑地保全と都市緑化による二酸化炭素吸収源対策

流山市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）

【目標】2025年度において、2019年度比で14.7%削減します。

【重点プロジェクト】

- ①再生可能エネルギーの導入推進
- ②公用車EVと再エネ充電設備の普及促進
- ③廃棄物処理施設の省エネ化とごみの焼却量削減
- ④緑化の推進
- ⑤情報化の推進
- ⑥省エネルギー対策
- ⑦職員が取り組む対策

環境基本計画
基本目標3

【基本目標】

ごみを少なく、資源を有効に利用する循環型のまち

【方針】

「3R」を推進し循環型社会を目指します。また、発生抑制の推進、資源化の促進と併せて、安全で、環境負荷の少ないごみ処理を目指します。

【施策の方向】

- ① 「流山市一般廃棄物処理基本計画」の推進
- ② 国・県の廃棄物行政や関連自治体との連携
- ③ 廃棄物不法投棄、ごみのポイ捨て等への対策

計画同士の大きな内容の違いは無く、さらなるごみ発生量の減少及び資源化率の向上を目指す。 PDF②

流山市一般廃棄物処理基本計画

表1 数値目標

項目	単位	現状	中間目標	計画目標
		2017年度 (平成29年度)	2023年度 (平成35年度)	2028年度 (平成40年度)
ア 1人1日当たりのごみ発生量	g/人・日	853	789以下	768以下
イ 1人1日当たりの家庭系ごみ発生量 (容器包装プラスチック類、ペットボトルを除く)	g/人・日	438	402以下	372以下
ウ 資源化率(資源化量÷ごみ発生量)	%	22	22以上	22以上
エ 最終処分量	t/年	8,275	4,061以下	3,974以下

基本方針

- 1 大量廃棄からの脱却とさらなる資源化
- 2 環境負荷の少ないごみ処理システムの構築

個別施策(抜粋)

- ・ごみ減量・資源化の啓発
- ・公平な費用負担
- ・食品ロスの削減
- ・プラスチックごみの分別徹底と再資源化

生活排水処理基本計画編

基本方針

- 1 公共下水道を中心とした生活排水処理の促進
- 2 循環型社会形成に資するし尿・浄化槽汚泥処理システムの構築

生物多様性ながれやま戦略（第二期）

私たちのくらしは生物多様性に支えられています

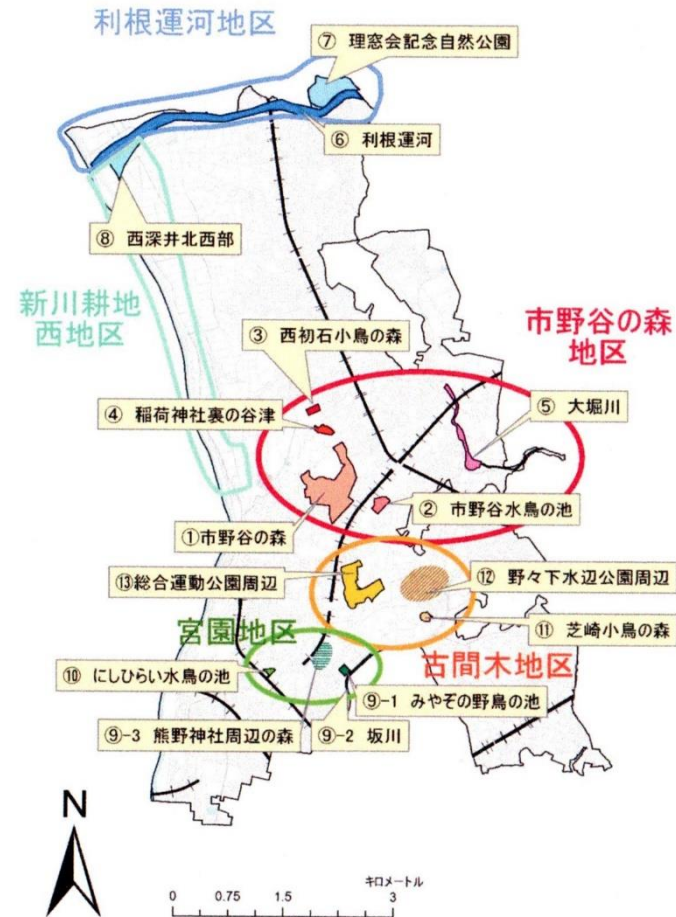
私たちが日々当たり前のように飲んでいる水、おいしい食べ物、医薬品、服などは様々な生物多様性の恵みにより作られています。また、豊かな生態系を育む里山の木々は、洪水などの自然災害から私たちを守り、酸素を供給し、健全な水循環を維持してくれるなど様々な生物が生存していく上で欠かせない生物多様性の基礎となる重要な存在です。人間の文化の構築にも生物多様性が根源にあります。

このように、生物多様性が豊かな自然は、私たちのくらし、様々な命を支えています。



重点地区・拠点について

本戦略では、下記の5地区13拠点を重点地区・拠点到定めます。



重点地区・拠点

以下重点地区・拠点は

- ②市野谷水鳥の池
- ③西初石小鳥の森
- ④大畔の森（稻荷神社裏の谷津）
- ⑤大堀川
- ⑥利根運河
- ⑦理窓会記念自然公園
- ⑧西深井西北部
- ⑨みやぞの野鳥の池、坂川、
熊野神社周辺の森
- ⑩西平井水鳥の池
- ⑪芝崎小鳥の森
- ⑫野々下水辺公園周辺
- ⑬総合運動公園周辺

詳細については市ホームページを！

モニタリング調査拠点

調査拠点概要

■市野谷の森地区

①市野谷の森 植 鳥 チ カ



市の鳥であるオオタカが生育・繁殖する、24 ha におよぶ市内最大級の平地林です。近年林内への出入りが増加し、生物の乱獲などの被害が増えています。つくばエクスプレスの沿線開発による宅地造成等により周辺環境の変化が著しい場所です。

環境タイプ

調整池 湿地 草地

管理・人為的インパクト

周辺環境の変化（造成）乱獲被害